

武庫川女大 ○ 北浦多栄子 天野敏彦

目的： 家庭科男女共修では「食物」「保育」「住居」分野への導入は比較的スムーズなのに比べ「被服」分野は難しいと聞く。普通科目となった家庭科の円滑なスタート、被服分野への容易な導入を目的に、被服分野の取扱いの現状と問題点の対策を検討した。

方法： 1994年4月からの高等学校家庭科男女必修を前に、1994年3月、滋賀県高等学校教育研究会家庭科部会では、以前から男女共修を実施していた13校の実践報告をまとめた「滋賀県における男女共学のあゆみ」を発刊した。この冊子に記載されている指導計画・指導内容・指導方法を参考に、被服分野担当教師や生徒達への聞き取り調査をした。また滋賀県内全高校の家庭科担当教員へ男女共修に関するアンケート調査をした。

結果： ①基礎学力の低下・生活体験の乏しい生徒が増え、実習時の一斉授業が困難になってきた。教員2人体制または分割授業が不可欠である。②履修生徒数増加に対応出来る実習室の改善、備品数の確保、修理費・消耗品費の充足による設備充実。③スタート段階での男女の知識差をなくすため、中学校教師との交流や連絡会が必要。中学校での被服分野の男女必修を望む。④教師の研修・教材研究を頻繁に行い、質の向上に努め、被服分野が不得意とならないように。⑤被服製作実習導入時に進度の遅れた生徒を出さないために、初期の個別指導・補習等の心配りが大切である。後になるほど修正は難しくなる。

アンケートの要望事項で最も多かったのは、実践報告とまったく同様に教員2人体制か分割授業である。次に多かった設備の充実としては、作業台を新調する場合は男子を考慮してもう少し高めに、また操作の容易なコンピューターミシンの設置の希望であった。